

玉川上水・野の花だより No. 2 1

ツリガネニンジン

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026 年 6 月 23 日

ちいさなツリガネニンジンの花が咲きました。ずっと、この花の咲くのを待っていました。

不思議な名前ですね。ホタルブクロと同じ、ききょう科ですが、13～22mmの小さな釣鐘のような花をたくさんつけます。ニンジンの意味は、「白くて太い根を朝鮮人参にたとえたもの」と言われています（参考：新牧野植物図鑑）。

長く伸びた茎に、小さな釣鐘の花が輪生する円錐花序がつくられ、まるで、ワルツを踊るように次々に咲いていきます。花の色は、淡い紫から藍色まで、一つ一つの花が装いをこらし、清楚なご婦人がステップをふんでいるようにも見えます。釣鐘のなかから長く伸びているのは、クリーム色のめしべで、鐘をならしている風情があります。

日本固有の種ですが、新牧野植物図鑑によりますと、サハリンや千島列島にも分布すると記載されています。ツリガネニンジンを探して、北方の島々を歩かれたのでしょうか。

小さな花の中に、「夢を旅する」宇宙が、広がっています。



ツリガネニンジン 2026 年 6 月 22 日 17 時撮影（於：大山緑道）